

「青葉の風テラス」運営事業者（株式会社 都市設計）

Q. 施設の魅力

青葉山エリアの玄関口である地下鉄東西線国際センター駅の駅舎上部にある多目的スペースや芝生が広がる屋外テラスからなる施設「青葉の風テラス」を3社で運営しています。市民イベントのほか、国際センターでの学会等のアフターパーティー会場などとして、市民をはじめ多様な人々の賑わいの場として活用されています。

テラスは、都心の街並みと広瀬川が調和した最高のビュースポットです。



写真提供：株式会社 都市設計

Q. エリアの課題、期待すること

エリア内のコンテンツ（様々な資源）に、回遊性を呼ぶ仕掛けがされていないため、それを作ることで一日回って楽しめるような場所になるポテンシャルを秘めていると思います。

「仙台は日中どこに行ったらいいか分からない」という声をよく聞きます。「青葉山エリアは一日過ごせて気持ちいいですよ」と案内できるようなエリアになることを期待しています。

Q. エリアにおける今後の活動の展開

市民や観光・MICEなどの来訪者、企業の方々など様々なプレーヤーに青葉山エリアを色々な形で訪れ、使ってもらえるハブに「青葉の風テラス」がなれるよう、エリアを盛り上げていきたいです。

その他のご意見

Q. エリアの印象、魅力

- ・都市、歴史、自然の3要素が融合した特別な場であること
- ・豊かな自然、大学のキャンパス等が市民にあまり知られておらず、大きな可能性を秘めている
- ・自然と調和した仙台城跡は、他の城にはない大きな魅力である

Q. エリアの課題

- ・施設は充実しているが来訪者を満足させるソフトコンテンツが不足している
- ・観光面において、エリアの情報発信が十分とは言えない
- ・カフェなど人々が集える場所が少ない
- ・歩いて楽しめる工夫が必要

Q. エリアに期待すること

- ・エリア関係者による連携組織
- ・大学の資源が開かれ、市民の学びの場となること
- ・大学との連携による市民向けイベントの実施
- ・エリアの滞在時間を延ばす仕組みづくり
- ・都心との連携
- ・市民の日常使いの憩いの場となること
- ・遊歩道や河川敷の整備など広瀬川の活用
- ・豊かな自然を生かしたコンテンツづくり
- ・心と体の健康を増進するような「歩くエリア」となること
- ・若者がわくわくし、行きたくなくなるような場になること
- ・青葉山公園が大学生も身近に感じられるような空間になること

3 青葉山エリアの特性と価値、課題

(1) 青葉山エリアの特性・価値

青葉山エリアには、各種資源を有することによる多様な特性と価値がある。

■豊かな自然と歴史資産が残る特別なエリア

都心からほど近くにありながら、天然記念物青葉山、広瀬川など豊かな自然が広がるほか、史跡仙台城跡など歴史資産を有する。青葉山公園、西公園の整備により、憩いと安らぎの空間の一層の充実を図る。

(主な資源) 天然記念物青葉山、東北大学植物園、広瀬川、仙台城跡、瑞鳳殿、青葉山公園、西公園、青葉の森緑地
(進行中の事業) 史跡仙台城跡整備、青葉山公園整備、西公園再整備

■文化芸術施設、教育・研究施設が集積する文教エリア

仙台市博物館、宮城県美術館をはじめとした文化施設、大学、高等学校等の教育施設が立地。国際センター駅北側には、文化芸術・災害文化の拠点として音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備を進め、文教エリアとしての充実を図る。

(主な資源) 仙台市博物館、宮城県美術館、東北大学、東北大学川内萩ホール、宮城教育大学
(進行中の事業) 音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設整備

■アクセスに優れた立地

エリア内は地下鉄沿線であるほか、るーぷる仙台が周遊しており、都心からのアクセスが至便。また、エリア内にDATE BIKEポートが複数あり、国際センター駅を起点とした移動などにも便利。

(主な資源) 地下鉄東西線、観光シティループバス「るーぷる仙台」、仙台コミュニティサイクルDATE BIKE

■「学都・仙台」と、先端技術の創造・発信の重要拠点

東北大学、宮城教育大学が立地し、高度な研究が行われていることに加え、次世代放射光施設（ナノテラス）の稼働により、新たなイノベーションの創出と地域経済への波及効果が期待される。

(主な資源) 東北大学、宮城教育大学、次世代放射光施設（ナノテラス）
(進行中の事業) 東北大学サイエンスパーク、次世代放射光施設（ナノテラス）周辺のリサーチコンプレックスの形成推進

■仙台城跡、瑞鳳殿等から成る本市の主要観光地

史跡仙台城跡をはじめ、瑞鳳殿、仙台市博物館等が立地する本市の主要観光地の一つ。新たな複合施設の整備、エリア内施設の連携による新たな取組みにより一層の交流人口の拡大が期待される。

(主な資源) 仙台城跡、瑞鳳殿、仙台市博物館、宮城県美術館

■東北大学、仙台国際センターを中心とするMICE拠点

東北大学、仙台国際センターを核として、グローバルMICE都市である本市のコンベンション開催拠点となっている。大規模学会等の開催時は、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設との連携・協力を図るほか、青葉山公園（仙臺緑彩館）等のエリア内資源の活用などにより、MICE機能の強化を図る。

(主な資源) 仙台国際センター、東北大学川内萩ホール



■ 情報発信

- ・エリアに関する情報提供に関して、「満足」と回答した市民の割合は2割にとどまっている
- ・エリアに関する市の事業やイベントに関する情報が市民に十分に届いているとは言えない

⇒ エリアに関する一層の情報発信により、エリアの魅力や価値の周知が必要

■ 移動環境

- ・市民の青葉山エリアへの移動手段は、自家用車の割合が約7割と最も多く、イベント開催時などには交通渋滞が発生する。
- ・青葉山エリア内は高低差があり、エリア内の移動に制約がある

⇒ 交通渋滞対策や公共交通の更なる利用促進など、エリア内及び都心とエリアの回遊性の向上が必要

■ 公共空間の利活用

- ・エリア内には、文化施設をはじめとした公共施設のほか、公園や川など豊かな公共空間が広がっている
- ・エリアに期待されていることのうち、「各種イベントの開催」の割合が高く、広瀬川の親水空間や、青葉山公園や西公園の活用も期待されている

⇒ エリアの強みである川や公園など公共空間の一層の利活用が必要

■ 滞在環境

- ・エリアに期待することでは、「飲食に関すること」の割合が最も多い
- ・より滞在を快適にする休憩スペースや飲食施設などが期待されている

⇒ 多様な目的で訪れる人々が快適に過ごせる滞在環境の向上が必要

■ 連携体制

- ・一つ一つの資源は充実し、それぞれが来訪目的になっているものの、エリア内外の施設・機関等が連携した取り組みは十分とは言えない

⇒ エリア内外の事業者、市民活動団体、大学、施設管理者、行政等が一体となった取り組みの推進により、エリアの魅力や価値、回遊性等の一層の向上につなげることが必要

第3章 青葉山エリアの基本的方向性

1 青葉山エリアのコンセプト

仙台市基本計画における「まちづくりの理念」及び「目指す都市の姿」は、青葉山エリアの本質にも重なっている。こうした理念に、エリアの特性や価値を掛け合わせたものがエリアのコンセプトとなる。

仙台市基本計画における「まちづくりの理念」「目指す都市の姿」（抜粋）

挑戦を続ける、新たな都へ
～“The Greenest City” SENDAI～

仙台藩初代藩主伊達政宗公が築き、現代にも通じる町割りの礎ともなった城下町をはじめ、このまちの歴史資産は、私たちの誇りです。連綿と受け継がれてきた「杜の都」のまちづくりを基盤として、世界からも選ばれるまちを目指していきます。

目指す都市の姿

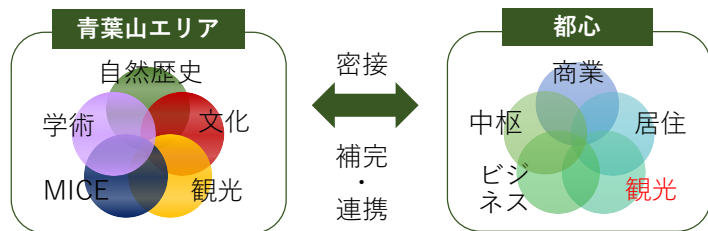
- 杜の恵みと共に暮らすまちへ
- 多様性が社会を動かす共生のまちへ
- 学びと実践の機会があふれるまちへ
- 創造性と可能性が開くまちへ

青葉山エリアの特性・価値

- 豊かな自然と歴史資産が残る特別なエリア
- 文化施設、教育・研究機関が集積する文教エリア
- 仙台城跡、瑞鳳殿等から成る本市の主要観光地
- 東北大学、仙台国際センターを中心とするMICE拠点
- 「学都・仙台」と、先端技術の創造・発信の重要拠点
- アクセスに優れた立地
- 更なる価値を創出するプロジェクトの進行

青葉山周辺は、本市基本計画において「国際學術文化交流拠点」と位置づけ、本市の持続的な発展を支える重要なエリアである。

商業やビジネス等の機能が集積する都心とは違った特性や価値を有しており、相互の機能を補完し連携することで、都市全体の魅力を向上させ、**新たな価値や交流を創出する。**



青葉山エリアのコンセプトの考え方

- ◆ 仙台はじまりの地という特別なエリアであり、豊かな自然や歴史を守り、受け継ぎながら、市民が愛着や誇りを感じる場であること
- ◆ 音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備や、大手門復元に向けた調査など、エリアに新たな価値や魅力を加え、本市の歴史と未来をつなぐプロジェクトが進行していること
- ◆ 市民や国内外からの来訪者が、歴史、文化、観光、学術、自然などの様々な資源に恵まれたこのエリアで、その価値を生かした多様な過ごし方や楽しみ方ができること
- ◆ エリアの資源を生かしながら、本市の主要な観光地としての魅力を更に高め、交流人口の一層の拡大を図ることで、都心とともに都市全体の活性化を牽引していくこと

エリアのコンセプト

「歴史」と「今」と「未来」をつなぐ
杜の都のシンボルゾーン
～ 特別な時間と空間を青葉山で ～

目指す将来像

- 市民に親しまれ、来訪者を惹きつける仙台観光の拠点
- 杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ
- 歴史や文化・芸術を伝え、創造性を育てる
- 学都の知と先端技術で未来社会をリードする

2 目指すエリアの将来像、将来像実現に向けた取り組みの方向性

エリアのコンセプトに基づく4つの目指す将来像を掲げ、その実現に向けた取り組みの方向性を示す。

市民に親しまれ、来訪者を惹きつける仙台観光の拠点

ハード、ソフトの個々の資源の魅力を有機的に結び、掛け合わせることで、エリア全体が魅力にあふれ、季節を問わず市民や観光客など多くの人々の心を惹きつけている。

市民に憩い、安らぎ、学び、交流する場として親しまれるこのエリアは、国内外の来訪者にとっても巡りたくなる場となり、仙台を代表する観光地としての魅力を更に高めている。



<取り組みの方向性>

・観光資源の整備、事業の推進

(例) 仙臺緑彩館を核としたエリア内案内機能の強化、快適な歩行環境の整備、博物館・美術館のリニューアル、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設整備、史跡仙台城跡整備、青葉山公園整備、西公園再整備

・エリアの資源を生かした観光コンテンツの充実、磨き上げ

(例) 旅行者向けガイド、体験コンテンツ等の充実、エリア内連携による企画

・エリア内の魅力を高める施設等の立地促進

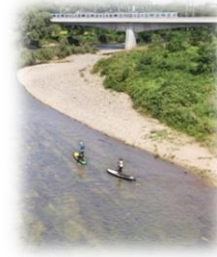
(例) エリアの魅力を生かしたレストランやカフェ、快適な休憩スペース、トイレ等の整備



エリアの魅力を生かしたカフェ イメージ
出典：浜松市ホームページ
上野恩賜公園ホームページ

杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ

天然記念物青葉山、広瀬川、青葉山公園、西公園など、豊かな自然が市民生活の身近にあり、日常的に親しみ、くつろぎ、語り合う場として大切にされている。



豊かな杜や水の恵みが、人々の暮らしを豊かにし、自然と共に生きる文化が杜の都のライフスタイルとして未来に引き継がれている。



<取り組みの方向性>

・憩い、自然に親しめる環境の整備

(例) 歩行環境の整備、休憩スペースの設置、ウォーキング・ランニングコースの充実

・自然に触れる新たな楽しみや学びの機会の提供

(例) 散策コースの紹介、天然記念物や史跡を学ぶツアーの実施、子どもの遊び場の充実

・広瀬川親水イベントの充実

(例) 民間団体のイベント開催への支援



西公園側河川敷



歩行環境の整備 (定禅寺通)



歩行環境の整備 (横浜市)
出典：国土交通省資料

歴史や文化・芸術を伝え、創造性を育てる

史跡仙台城跡、瑞鳳殿、仙台市博物館など伊達政宗公以来の歴史を感じさせる拠点、宮城県美術館や音楽ホールなど文化芸術の拠点、災害文化を創造する震災メモリアル拠点等で、様々な



世代の市民による学びや創造的な活動が盛んに行われている。

旅行者等の来訪者は、各種資源に触れエリアの魅力を味わっている。

文化 観光

<取り組みの方向性>

- ・歴史や文化・芸術の資源を生かしたより深い学びや新たな楽しみの提供
(例) 博物館、美術館等の連携・企画、
エリア内ガイドツアー、校外学習、教育旅行メニュー等の充実
- ・音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設を拠点とした新たな文化の創造・発信



校外学習 イメージ



ガイドツアー イメージ



音楽ホールでの公演 イメージ



文化イベント イメージ

学都の知と先端技術で未来社会をリードする

東北大学、次世代放射光施設（ナノテラス）、仙台国際センター等が多く の 学生、事業者、研究者等に活用され、世界をリードする研究や、MICEの実績を通して、**市民や来訪者による**新たな交流やイノベーションが生まれている。



大学の知的資源や、エリア内で創出される先端技術が開かれ、国内外の人々の学びや生活に寄与している。

提供：東北大学

MICE 学術 観光

<取り組みの方向性>

- ・エリア内施設や関連事業者との連携によるMICE受け入れ体制の強化とMICE参加者の回遊促進
(例) エリア内施設等調整の仕組みづくり、
エリア内施設を活用したユニークベニュー、
エクスカージョン等の充実
- ・大学が有する知的資源、エリアで創出される先端技術を市民や来訪者に紹介し、活用される機会の充実
(例) 校外学習、教育旅行、企業向け研修や視察等の充実
- ・大学の知見や「防災環境都市」としての発信による、国内外の防災力向上への寄与



ユニークベニュー会場としても活用
(青葉の風テラス)



防災学習 イメージ



第3回国連防災世界会議
2015年3月



東北大学災害科学国際研究所
写真提供：東北大学

3 回遊性の向上に向けて

青葉山エリアの「回遊性の向上」にあたっては、まずはこのエリアを訪れてもらう「回遊の創出」が必要であり、エリアが有する価値や魅力を効果的に発信していくことが重要。また、特性の異なる「都心」との連携を図りながら、都市全体の魅力向上につなげていく。

回遊の創出

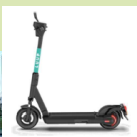
青葉山エリアが「訪れ、巡りたくなる場」となるために

- ・「魅力を知り、行って見て、また訪れたい。」そんなエリアを目指して、特別な時間と空間を味わえるエリアの多様なストーリーを発信していく
- ・「都心」と「青葉山エリア」。特性の異なる2つのエリアが相互に連携し、補い合うことで、それぞれの魅力を高め合っていく

回遊性の向上

エリア内の回遊性

- ・ **エリア全体の一体的な情報発信の充実**
(例) エリア共通Webサイトの構築、共通デジタルサイネージの導入、エリア内共通サイン設置
- ・ **エリア内施設等の連携**
(例) 博物館、美術館等の連携・共通企画
- ・ **仙臺緑彩館のエリア内案内機能の充実**
- ・ **国際センター駅を基点としたアクセスの向上**
(例) 仙台城跡へのアクセス向上の検討、新たなモビリティの検討、コミュニティサイクルの充実
- ・ **快適な歩行環境の整備**
(例) バリアフリーエリアの拡充、施設間の移動をスムーズにする歩行者動線の整備、ウォーキング・ランニングコースの充実
- ・ **エリア内の魅力を高める施設等の立地促進**
(例) エリアの魅力を生かしたレストランやカフェ、快適な休憩スペース、トイレ等の整備
- ・ **交通渋滞への対応**
(例) イベント開催時の施設間の連携、地下鉄等の公共交通機関の利用促進



新たなモビリティイメージ
出典：国土交通省資料

都心との回遊性

- ・ **交通事業者等との連携による回遊促進**
(例) 新たなモビリティの検討、MaaSの充実、都心循環バスとの連携
- ・ **居心地がよく巡り歩きたくなるようなウォーカブルなまちなか空間の形成推進**
(例) 定禅寺通活性化推進事業、都心地区のまちづくり団体などとの連携
- ・ **都心と青葉山周辺をつなぐエリアの賑わい創出**
(例) 西公園、広瀬川等の活用、イベント等の活動支援
- ・ **エリア内施設と中心部商店街等との連携**
(例) 施設利用者への都心で利用できる特典の付与、MICE開催時のユニークベンチャーとしての都心の活用
- ・ **青葉山エリア、都心相互の情報発信の充実**
(例) エリア相互を回遊するルートの発信
- ・ **民間事業者、市民活動団体等との連携・支援**



MaaSの充実イメージ

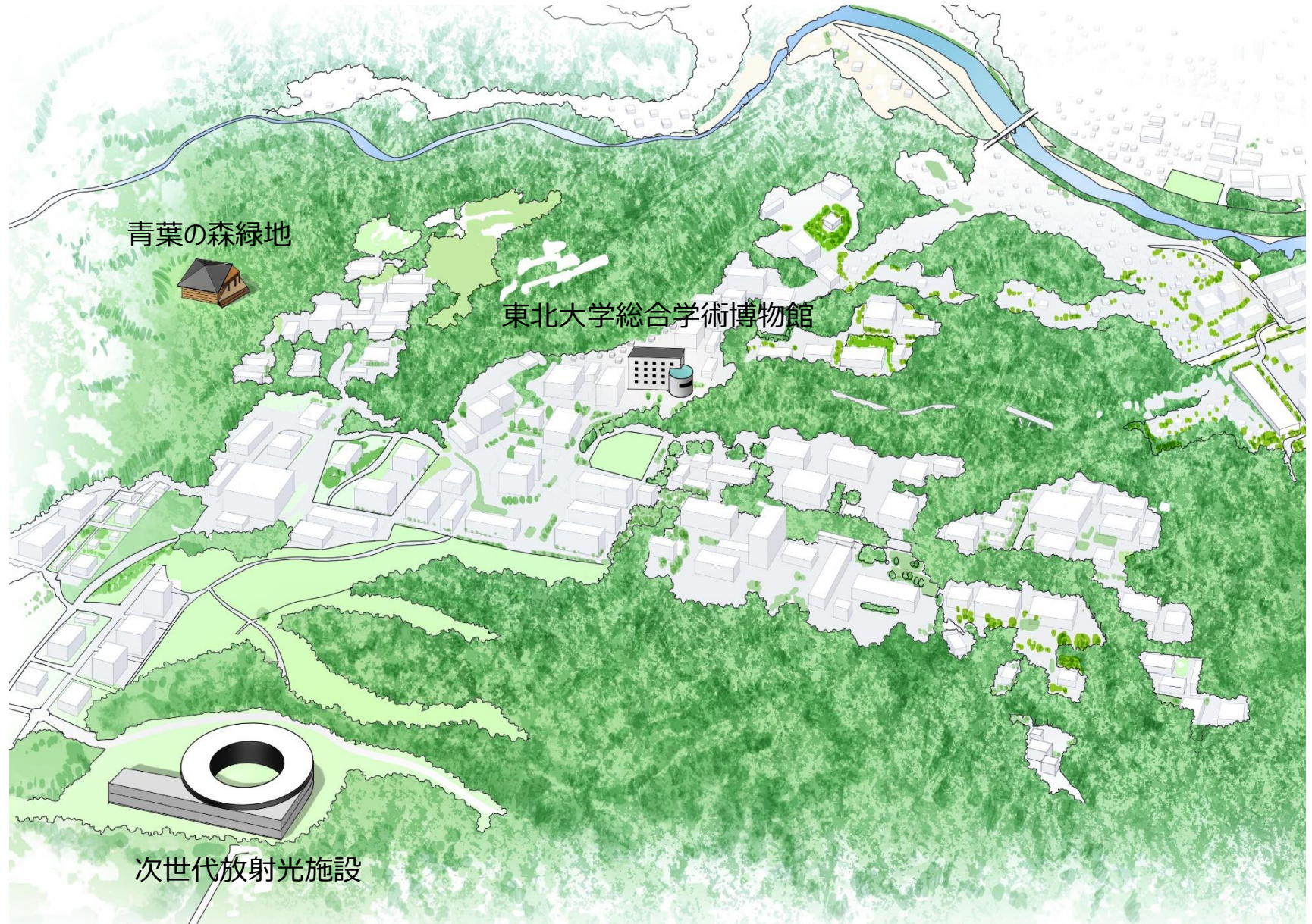


西公園でのイベント



中心部商店街との連携
(サンモールー番町商店街)

青葉山エリア 全体図





※本図は概ね10年後を見据えたイメージです

第4章 青葉山エリアの将来

1 青葉山エリアでの楽しみ方・過ごし方

歴史や文化施設、大学などの学術施設、豊かな自然など、充実した資源や立地の良さから、市民は日常的にこのエリアを訪れ、また、観光やビジネスなどで訪れる多くの来訪者もこのエリアの魅力を存分に楽しんでいます。

このように、様々な方が、様々な楽しみ方や過ごし方をしている様子を概ね10年後を見据えたイメージとして描いています。

※「イメージ〇」は、34ページ以降に掲載するエリア内の各所での楽しみ方・過ごし方のイメージ図に対応しています

※イメージ図は現時点で想定しているものであり、今後の事業の進捗等により変わる場合があります

I ~休日の子育て家庭~

- 地下鉄で国際センター駅まで
家族で博物館へ
- 博物館鑑賞後、青葉山公園へ
中央広場で子どもと体を動かして遊ぶ
⇒イメージ①
- 仙臺緑彩館のカフェでランチ
- 帰りは大橋を渡って、
大町西公園駅から
地下鉄で帰宅

杜や水と暮らす都市文化を
未来に引き継ぐ

歴史や文化・芸術を伝え、
創造性を育てる

II ~若者グループ~

- 広瀬川河川敷のイベントに立ち寄り
川を眺めながら軽食 ⇒イメージ②
- 国際センター付近から新モビリティで
仙台城跡へ
伊達武将隊等によるショーを楽しむ
⇒イメージ③④
- ライトアップされた
登城路を散策しながら
下り、音楽ホールの
レストランで食事
⇒イメージ⑤

市民に親しまれ、来訪者を
惹きつける仙台観光の拠点

杜や水と暮らす都市文化を
未来に引き継ぐ

III ~伊達な文化巡り~

- るーぷる仙台で瑞鳳殿へ
- 仙臺緑彩館へ移動し、
歴史・自然ガイドツアーに参加
東北大学植物園などを散策 ⇒イメージ⑥
- 再びるーぷる仙台で大崎八幡宮へ
参拝後、都心へ移動

市民に親しまれ、来訪者を
惹きつける仙台観光の拠点

歴史や文化・芸術を伝え、
創造性を育てる

IV ~文化芸術を味わう~

- 地下鉄東西線で川内駅まで
美術館で絵画を鑑賞する
- 音楽ホール等複合施設で
震災メモリアルの展示を見たのち公演鑑賞
⇒イメージ⑤
- 西公園のイベントを眺めながら都心へ
鑑賞者特典の
クーポンを使って
仙台グルメを堪能

歴史や文化・芸術を伝え、
創造性を育てる

市民に親しまれ、来訪者を
惹きつける仙台観光の拠点

V ~アフターMICE~

- 地下鉄東西線で国際センター駅まで
国際センターで会議
- 会議の合間に仙台城跡を見学
- 会議後、仙臺緑彩館を会場とした
レセプションに参加
⇒イメージ⑦
- 地下鉄で都心へ移動
国分町の飲食店で
参加者による懇親会

学都の知と先端技術で
未来社会をリードする

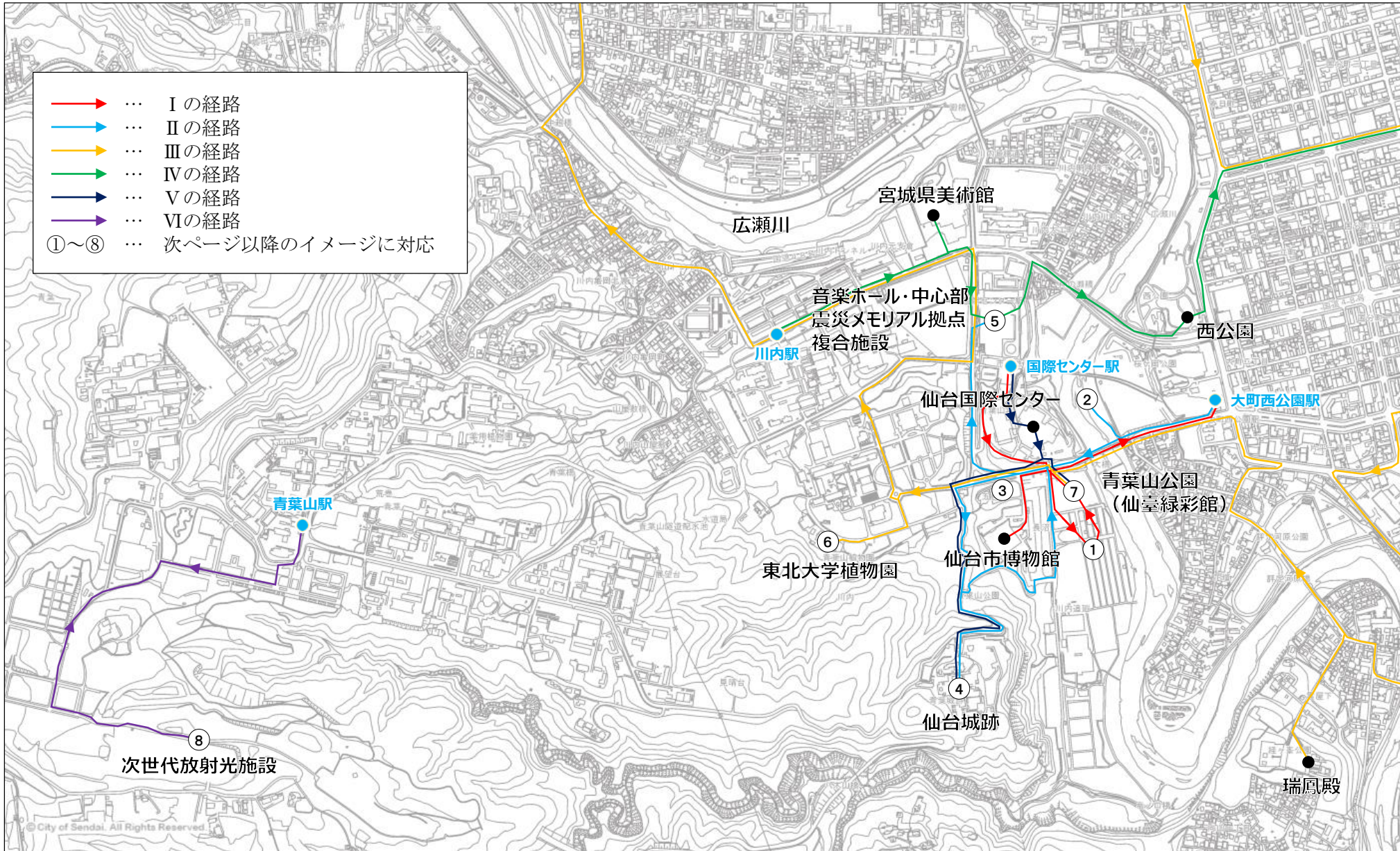
市民に親しまれ、来訪者を
惹きつける仙台観光の拠点

VI ~教育旅行~

- 地下鉄東西線で青葉山駅へ
次世代放射光施設へ新モビリティで移動、
見学 ⇒イメージ⑧
- 解散後、グループ別自由行動
 - ・国際センターからコミュニティサイクルで
エリア内施設めぐり（共通チケット）
 - ・緑彩館を起点としたガイドツアーに参加
 - ・地下鉄で都心へ
商店街めぐり

学都の知と先端技術で
未来社会をリードする

市民に親しまれ、来訪者を
惹きつける仙台観光の拠点



①青葉山公園から仙台城跡を望む“政宗ビュー”

➤ 植生の修景により、仙台城跡の城郭らしい景観“政宗ビュー”が実現



➤ 中央広場には、親子が体を動かして遊ぶ姿、お弁当を広げる姿も

➤ 公園から出発する、歴史・自然ガイドツアーに参加する人々の姿も

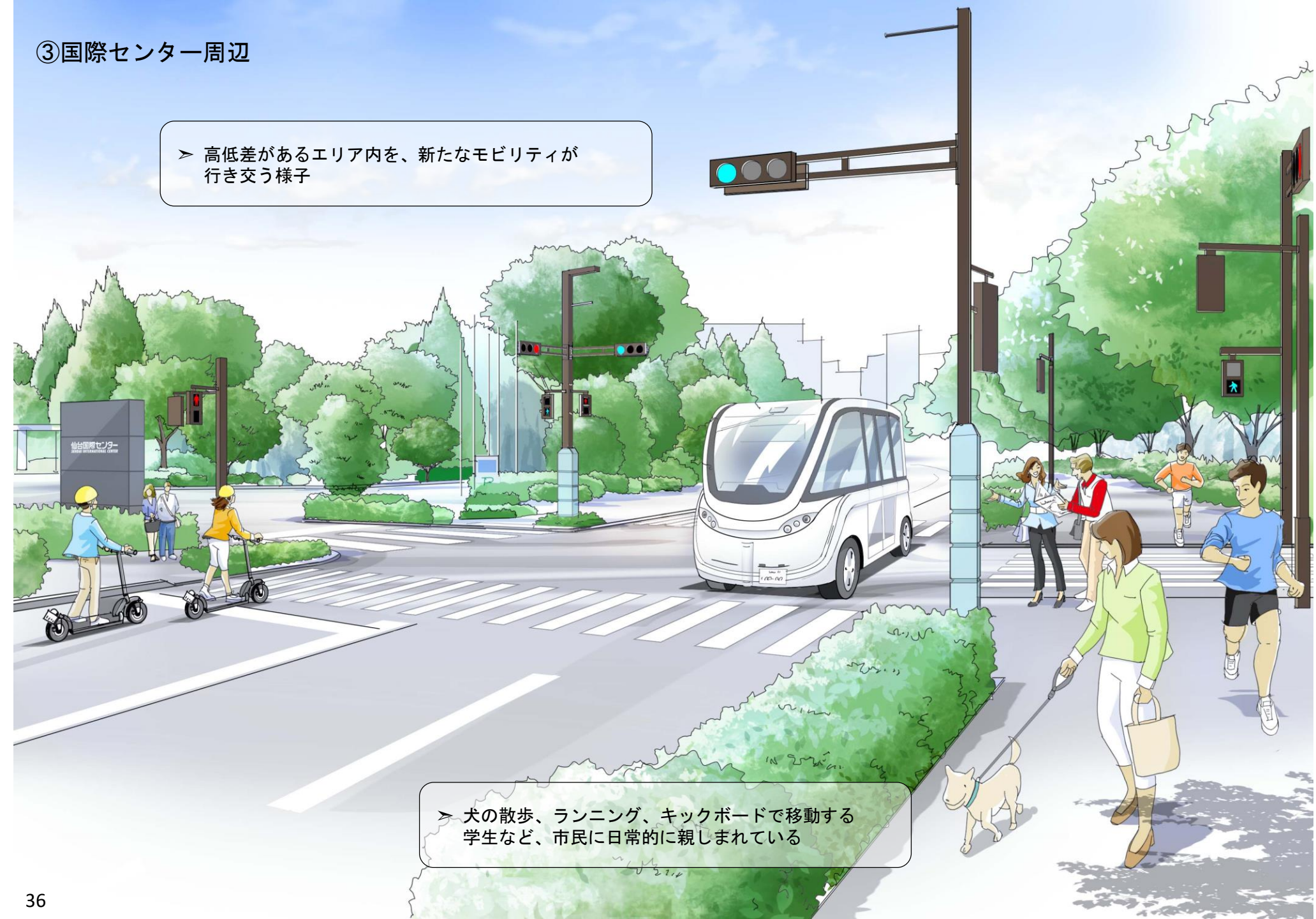
② 広瀬川河川敷（西公園側）

➤ イベントに活用され、市民でにぎわう広瀬川

➤ イベント時に川の魅力満喫。青空の下、河川敷でたたずむ人々、川遊びをする子どもたち、カヌーやSUP体験を楽しむ人々の姿も

③国際センター周辺

➤ 高低差があるエリア内を、新たなモビリティが行き交う様子



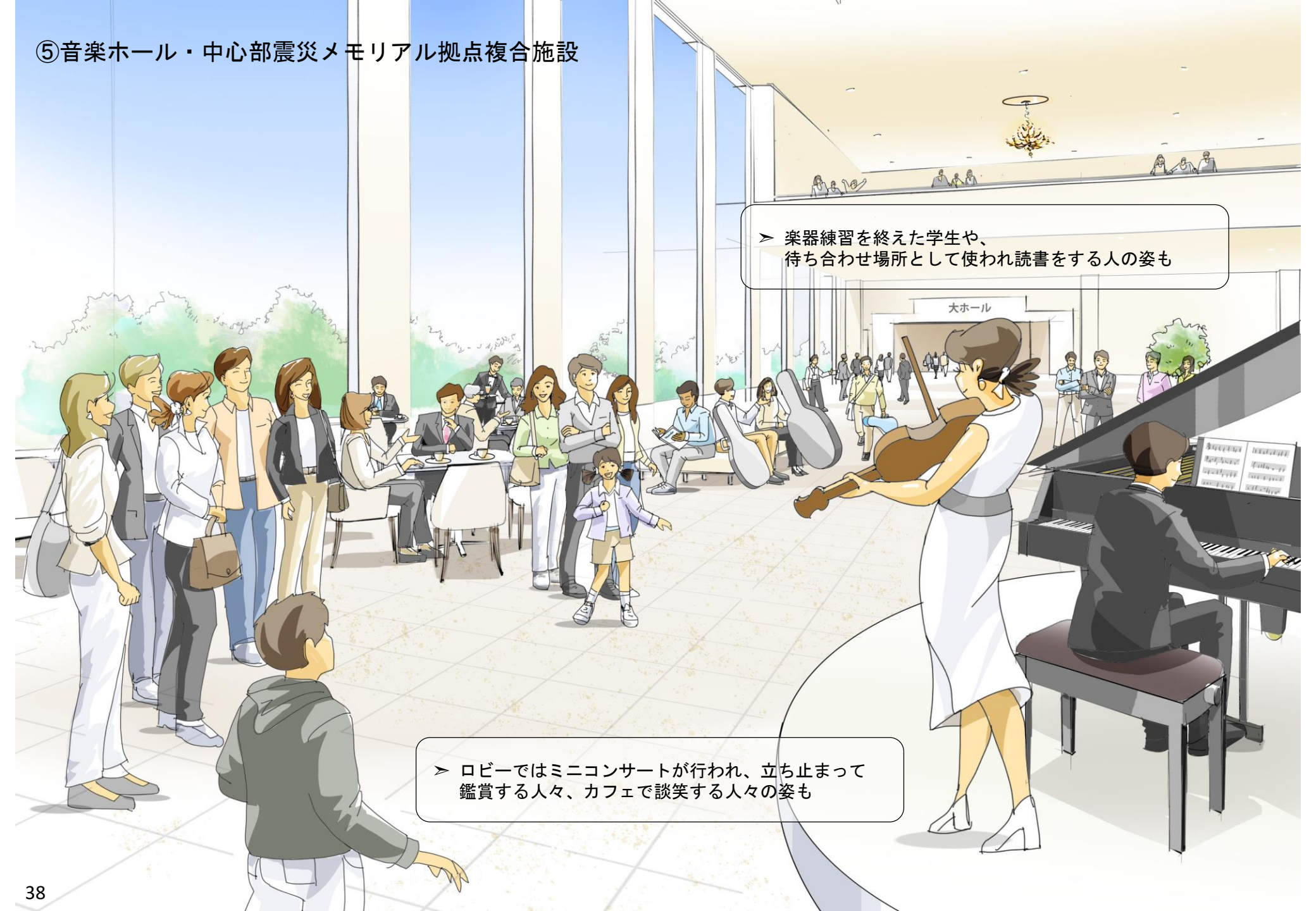
➤ 犬の散歩、ランニング、キックボードで移動する学生など、市民に日常的に親しまれている

④ 仙台城跡

➤ 市内の夜景を一望できる仙台城跡

➤ ライトアップされた騎馬像前で、武将隊によるエンターテインメントを楽しむ人々にぎわう

⑤音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設



➤ 楽器練習を終えた学生や、
待ち合わせ場所として使われ読書をする人の姿も

➤ ロビーではミニコンサートが行われ、立ち止まって
鑑賞する人々、カフェで談笑する人々の姿も

⑥東北大学植物園（天然記念物青葉山）

➤ 市民に開かれ、散策やスケッチする人々が訪れている



➤ 天然記念物青葉山を保全するほか、国内から収集された野生植物を植栽展示。青葉山の自然や植物学などの屋内展示も

⑦青葉山公園・仙臺緑彩館

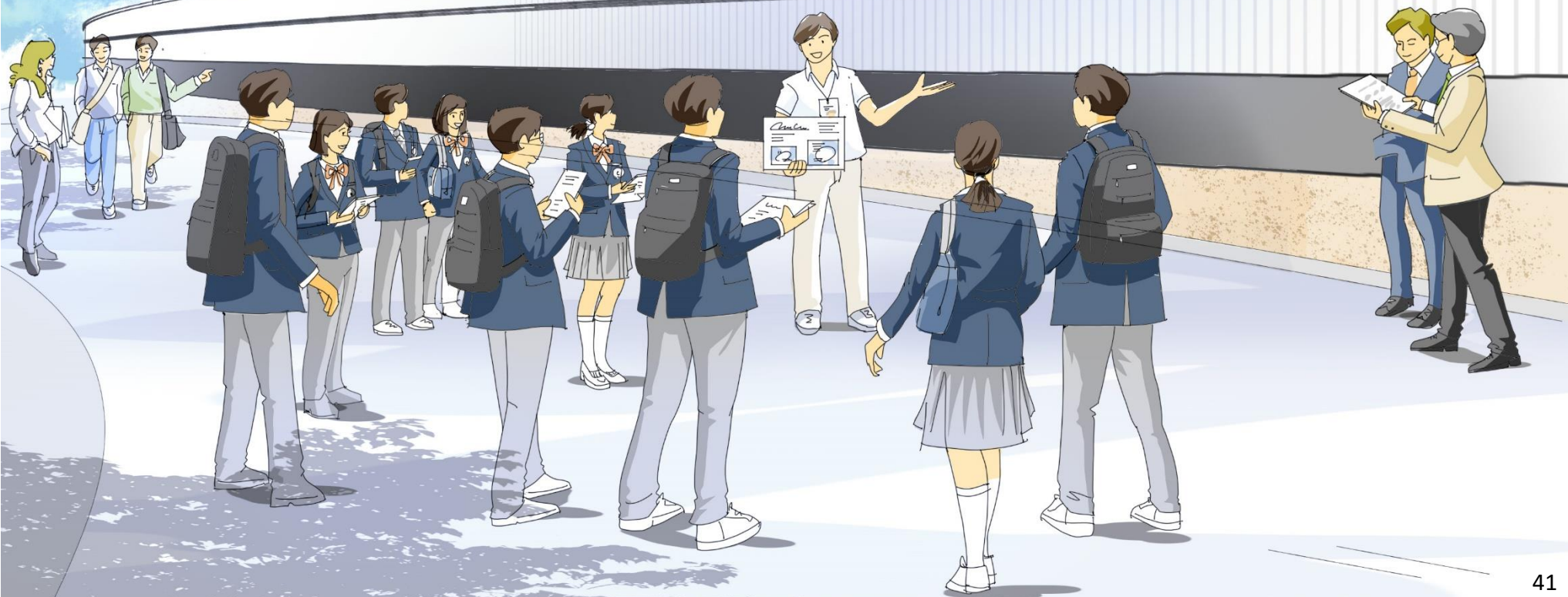


➤ 学会関係者が公園にテーブルを並べてレセプション。
スーツスタイルで議論に花を咲かせている

⑧東北大学サイエンスパーク、次世代放射光施設

➤ 教育旅行で施設見学。説明を受ける学生グループ

➤ 研究者や学生、事業者が集まり、行き交う姿も



2 ビジョンの実現に向けて

本ビジョンが示す目指す将来像の実現により、一層の交流人口の拡大を図るためには、エリアにある個々の施設、事業等の取り組みはもとより、これら相互の連携により相乗効果を生み出し、エリア全体の魅力、ブランド力を高めていく視点が重要である。こうしたことから、エリアに関わる多様な主体間の連携を強化し、ビジョン実現に向けた様々な取り組みを推進していく。

➤ ビジョンの共有

本ビジョンの実現に向けては、本市やエリア内の関係者のみならず、広く市民、経済界などの理解、協力を得ながら進めていくことが必要であり、エリアの目指す方向性、今後の具体の取り組みなどについて広報、周知を図っていく。

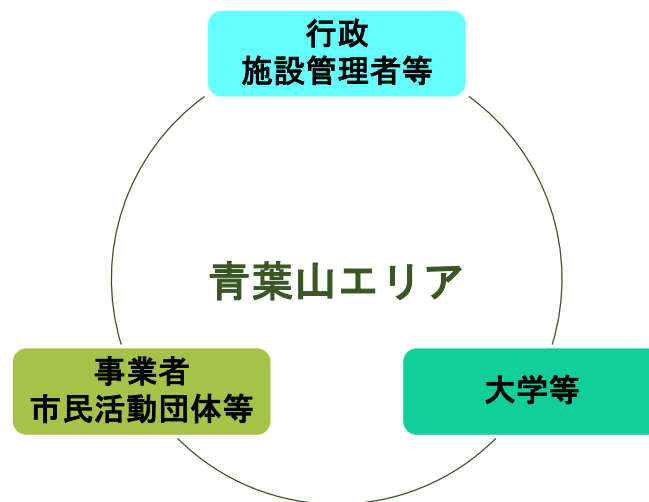
➤ 本市における推進体制

史跡仙台城跡整備、公園整備、広瀬川、観光、MICE、文化芸術、産業振興など、エリアに関連する事業は多岐にわたることから、庁内関係部局間の緊密な情報共有のもと、組織横断的に各種の検討や調整を行い、実効性のある施策の展開を図る。

➤ エリア関係機関、団体等との連携

行政、事業者、大学等のエリアに関する様々な主体が連携しながらエリア全体としての情報発信の充実や回遊性の向上に向けた取り組みなどを推進していく。

エリア全体で取り組みを効果的に推進するための仕組みや、その中心となる組織のあり方等について検討を進める。



関係機関、団体等の連携により、一体的に事業を推進

検討経過

令和4年5月～6月

青葉山エリアに関する市民アンケート実施

令和4年8月30日

第1回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会

令和4年9月25日

青葉山エリアに関する市民シンポジウム

(仙台国際センター 参加者約200名)



令和4年8月～9月

エリア関係団体（市民活動団体、事業者等）へ
ヒアリング実施

令和4年11月8日

第2回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会

令和4年12月23日

第3回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会

令和5年1月●日～2月●日

ビジョン中間案に係るパブリックコメント

(ご意見：●名、●団体、計●件)

令和5年3月●日

第4回青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会

青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会 委員名簿

氏名	所属・役職等
座長 宮原 育子	宮城学院女子大学現代ビジネス学部 教授
座長代理 榑原 進	特定非営利活動法人都市デザインワークス 代表理事
姥浦 道生	東北大学大学院工学研究科 教授
紫富田 薫	株式会社コングレ 専務取締役
庄子 真岐	石巻専修大学経営学部 教授
高山 秀樹	仙台商工会議所 専務理事・事務局長
深澤百合子	東北大学 名誉教授
松田 法子	京都府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授
藻谷 浩介	株式会社日本総合研究所 主席研究員

※五十音順、敬称略

